

報道発表資料 全国最大級の豊臣秀吉像(豊国大明神像)が大阪市内で新たに発見されました

2020年5月21日

問合せ先:教育委員会事務局

総務部 文化財保護課(06-6208-9069)

令和2年5月21日 14時発表

大阪市教育委員会は、旭区大宮3丁目に所在する大宮神社(おおみやじんじゃ)で、新たに木造豊臣秀吉坐像を発見しました。秀吉は没後「豊国大明神(とよくにだいみょうじん)」の神号を贈られるとともに、京都に豊国神社(とよくにじんしゃ)が建立され、神としてまつられました。その姿をあらわした木像は、秀吉の没後から江戸時代にかけて造られてまつられましたが、現在知られているのは全国で20数例と限られています。新発見された秀吉像は、頭部の冠を欠失した状態で像高が80センチメートルを超えという、等身の大きな像です。銅像など近現代の作例を別にすれば、最大級の彫像と考えられます。全国的にも非常に貴重な発見です。

(注)この像は、一般公開されていません。

発見の経緯

大宮神社は、大宮八幡宮とも称される旭区大宮に社地を構える神社です。鎌倉時代の創建で、江戸時代には大坂城の鬼門守護の神社として信仰されていた、と伝えています。

秀吉像は、境内の摂社のひとつである高良社(こうらしゃ)の社殿の中にまつられていました。社殿の扉には釘止めがされ、長く秘されてまつられていたということです。令和元年に社殿の改修工事が計画され、像を移動する必要が生じました。それに伴い調査する機会をいただくことができたため、この発見に至りました。

大宮神社の秀吉像

大宮神社の秀吉像は、像高が現状で81.9センチメートルをはかる等身大の坐像です。額の三条の皺(しわ)、長くこめかみに及ぶ眉、彫出された三日月形の目などとともに、特徴のある容貌です。膝前に平緒(ひらお)をあらわし、両足裏を正面で打ち合わせる束帯(そくたい)姿の像ですが、頭上の冠は失われています。右手には笏(しゃく)などの持物をとっていたと考えられます。彩色はほとんど剥落しており、現状では木の彫刻面が露出した状態です。各部材の接合が緩んでおり、冠など失われた部材もわずかに

ありますが、寄木造の像の部材はほとんどが残っており、その全容を知ることができます。像に銘記はありませんが、製作年代は江戸時代と考えられ、17世紀中頃にさかのぼる可能性もあります。

文政6年(1823年)の開帳

文政6年(1823年)に大宮神社で開帳が行われており、この秀吉像が公開されたと考えられます。この開帳が行われた18世紀末から19世紀初めにかけては、寛政9年(1797年)に秀吉の一代記である『絵本太閤記(えほんたいこうき)』が出版され、それを翻案した浄瑠璃が大坂・京都で頻繁に上演されるなど、秀吉ブームが巻き起こっていました。秀吉とゆかりの深い、京都や長浜で、秀吉をまつる豊国神社の再興の動きが盛り上がったのもこの時代です。大宮神社の開帳も、このような秀吉ブームに連なるものではないかと考えられます。

秀吉の木像

秀吉が神格化した姿をあらわした豊国大明神像の作例としては、画像が多く残されています。秀吉の没後まもない桃山時代から江戸時代初めの作例だけで、30を超えるといわれています。

一方で、木像は知られている作例は少なく、全国で20数例が知られるのみです。これらの木像は、像高が80センチメートル程度の大きな像から、10センチメートル程度の小さな像までさまざまです。その中では京都市の西方寺像が最も大きく、冠を含めた像高が81.0センチメートルです。

これに対して大宮神社像は、冠を欠失した状態での像高が81.9センチメートルであり、西方寺像よりもひとまわり大きい等身大の像で、近現代の銅像などをのぞけば、全国で最大の木像となります。

大阪市域の仏像・神像

大阪市域は度重なる火災に見舞われていますが、近年になって貴重な仏像・神像が数多く残っていることがわかってきました。これらのうち、すでに重要文化財となっている像が11点、大阪府指定文化財となっている像が9点、市指定文化財となっている像が47点あります。このうち神像は大阪市指定の2点で、他は仏像です。この他にもたくさんの像が伝来しています。大阪市教育委員会ではそれらの文化的な価値を把握する調査をすすめるとともに、保存と啓発をすすめています。

用語解説

豊国神社(とよくにじんじや)

慶長3年(1598年)に没した秀吉を豊国大明神としてまつるために、秀吉が発願した大仏を安置するために建立された京都市東山区に寺地を構える寺院である方広寺(ほうこうじ)の隣地に建立された神社。秀吉ゆかりの地などにも分祀された。大坂の陣後に徳川氏によって破却され、以降、江戸時代は公には秀吉をまつりにくい状態にあった。明治元年(1868年)に再建されたのが現在の豊国神社である。

高良社(こうらしゃ)

八幡神の伴神のひとつとされる高良玉垂命(こうらたまだれのみこと)をまつる。豊国大明神像とは直接の関係はない。文政の開帳後は、秀吉像をこの社に秘してまつっていたと考えられる。

絵本太閤記(えほんたいこうき)

寛政9年(1797年)に出版された秀吉の一代記を記した読本(よみほん)で、文化元年(1804年)には幕府により発禁とされたが、翻案された浄瑠璃や歌舞伎は大ヒットし、大坂・京都で上演され続けた。



写真 大宮神社の豊臣秀吉像(豊国大明神像)